

2007年7月1日 MAP 2007 summer NO.1

成長するインターンシップ at ガイアックス

株式会社ガイアックスでは、「成長できるインターンシップ」が経験できるそうです。そこで実際にインターンを経験し、その後ガイアックスの社員になった方にインタビューをしてきました。答えてくださったのは、大学4年の夏から大学院を卒業するまでの2年半の間、インターンシップをしていた三田剛広さん。インターンシップにまつわるお話をいろいろうかがってきました！

「大学4年生のとき、自分は理系だったので院に行くことにしていたんですが、サークルの友人達が就活をしてどんどん成長していくのを見て、不安を感じていました。また研究室だけでは日々の刺激が足りないこともあって、インターンを探し始めました。ガイアックスを選んだのは、厳しい環境の下で実際の業務が体験できるということだったからです」

1ヶ月のつもりで始めたインターンシップ。しかし、社員と同等に責任ある仕事を任せてくれるガイアックスのインターンシップに、三田さんは徐々にのめり込んでいった。

「インターンシップを始めてすぐに、インターネットカフェにネットゲームの商品を営業するという仕事を任せられました。1000店舗にそのゲームを導入するという目標を立てたのですが、結局2店舗しか達成できませんでした。それがすごく悔しくて、インターンシップの期間をあと3ヶ月延ばしてもらったんです。それからの3ヶ月はその目標を達成するために、とにかく邁進していましたね」

その後は、契約期限が来るたびに延長し続けて、結局2年半にも及ぶインターンシップを経験した三田さん。その中で一番印象的だった出来事について聞いてみた。「インターネットカフェ事業を拡大するというで、その予算1000万円を自分の裁量で使っていいよ、と言われたことが一番印象的でした。その予算をつかってアルバイトやインターン生を自分で20名近く採用したんです。そして彼らを動かして北海道から九州まで日本全国に営業をかけていくということを計画・実行しました。今までは自分に対してだけ責任を取ってい

ればよかったのですが、人をマネジメントすることで、その人の人生にまで責任を持つということを経験しました。それはとても良い経験だったと思っています」

最後に、インターンで学んだことについて聞いてみると、こんな答えが返ってきた。

「無から有を作り出すことを学びました。そして自分の作り出したものが社会へインパクトを与えていくということの面白さも知りました。将来のビジョンも明確になってきて、僕はイチローや中田のように常に目標を高いところに設定していきたいと思います。世の中を見据えながら責任感を持ってその目標を達成していく。そしてそれが社会へ影響していく。そんな人間になりたいんです」

株式会社
ソリューション事業本部
三田剛広さん



株式会社ガイアックス

1999年設立。「人と人をつなげる」を企業理念に、主にITにおいて人と人とのコミュニケーションの促進やコミュニケーションの場を創造することに力を注いでいる。学生に大きなチャレンジの場を与えるインターンシップ制度が目ざされ、多くのメディアでもとりあげられている。